

質疑・意見交換

【司会】

それでは続きまして、質疑、それから意見交換に入りたいと存じます。

今、森山様からの基調講演がございましたけれども、これを踏まえました御意見、御質問のほか、それ以外でも、地方創生に関して普段お考えになられていることですか、お感じになられていることでも結構でございますので、活発な御意見をいただければと思っています。

それでは皆様、御発言はいかがでございましょうか。

今、森山様の御講演の中でも、全国のいろいろなお取組、内閣府のほうで力を入れていらっしゃるお取組ですか、北陸でもいろいろユニークなお取組の事例が載っており、非常にたくさんのお取組がなされているなど感じた次第なんですけれども、どうでございましょうか。

【メンバー】

たくさんメニューで支援していただけるというのはとても嬉しいことではあるのですが、例えば人が地方に来てくれているのかとか、我々が本当に実感できるものはとても少ないと思うんです。

そういう中で一番実感できるのは、やはり北陸新幹線。これは誰もが北陸にたくさんの方が来てくれているということを本当に実感して分かっているので、今度は早く大阪へつないでほしいというのが私の希望の1つです。

それと、私が住んでいる白山市は一番住みよい都市に選ばれたのですが、それでも人がたくさん増えているんだという実感はあんまりないんです。日本全体が減っている中で、増えるというのは難しいのかなというふうに思っております。

あともう一つ、SDGs、白山市と書いてありましたが、商工会議所でも去年は白山観光、白山を使った観光をしていこうということで市にも要望をしているんですが、白山は国立公園なので、もう少し登山口の整備や、休憩所をもう少しきれいにしてもらえませ

んかと幾つか要望もあるのですが、国立公園であるだけに、市からは「いや、難しいんですよ」と言われるので、何とか上手く進める方法はないかなということも考えて今進めているところです。

【司会】

どうもありがとうございます。

今、御発言の中でもございましたけど、いろいろな御要望のところでも上手くいかないという声はぜひまた、本日に限らず、いろいろなところで御要望を集めていただいてというふうに思いますけれども、そのほか、ございますでしょうか。

【メンバー】

今、いろいろとお話を聞きまして、福井は今、2023年に新幹線ということでいろいろと準備をしていますが、課題もかなりありまして、その中で一番大きな課題というのは、人を呼びにくい新幹線の通過駅になるのかなと。やはり金沢にみんな吸収されるのかなというふうに思っていて、それを何とかしなきゃいけない。

観光のインバウンドの話がありましたけれども、福井で考えなきゃいけないのは、ビジネスのインバウンドをどうするかということをもっと真剣に考えても良いのかなと思います。

大体11月、12月、1月になると、東京からのビジネスマンが多くなるんですね。カニを食べに。必ず夜、泊まりますし、お金も使いますので、このビジネスのインバウンドをどうしていくか。それにはやはり新しい仕事が必要になってきていて、福井県というのは基幹産業が繊維と眼鏡なんですけど、前知事の時に福井の経済新戦略会議というのがあり、経済戦略をつくる時に何か目玉はないかということで、「福井県で人工衛星を上げましょうか」という話になりました。今年度の上期にロシアのバイコヌールから人工衛星が上がる予定です。これは全国のいろいろなところに声をかけて県民衛星技術研究組合をつくって、今、人工衛星をつくることと、それからその衛星データを使ったビジネスをやるということで、かなりお金をかけてやっています。

これは何が良いかというと、昨年、国際宇宙会議というのが福井でありました。全世界から大体1週間で1,400人集まったんですね。これはかなりのインバウンドの数になったので、そういうのを目玉にして、やはり人を呼び込む、観光を大事にするというのが必要

なんです。

福井県に足りないものは、1,000人規模の宴会ができる宴会場がないこと。金沢でも1,500人を超えると施設がないんですね。ですから、これからそういうビジネスで人を呼ぶ時には、こういう設備も必要になってくるということを考える必要があります。

あとは、副業・兼業の話が今商工会議所もいろいろ問題になっていまして、厚生労働省は何時間も仕事をするなど言う。経産省は副業・兼業をしろと。この矛盾をどう成立させるのかということを実際に考えないと、私たちは非常に困ってしまう。各省庁間で縦割りでやっているのもあるんですけども、その辺のバランスをどう説明していくのかということが大事なような気がします。

いろいろな目標をつくっていますが、どうもチャレンジ的な目標が多いねという気がします。チャレンジが行き過ぎるとノルマになっちゃうので、やはり冷静な目標をつくって、それをクリアしていくということが大事かなと思います。

【司会】

ありがとうございました。貴重な御意見をいただきました。

特に真剣に現場で考えていらっしゃる、感じていらっしゃる課題に即して、工夫をされて独自の取組をされているということも非常に参考になるお話だなというふうにお聞きいたしました。ありがとうございました。

【メンバー】

私、やはり新幹線が2023年春開業ということで、大いに期待しているんですが、一方で、敦賀までということで、どこまで観光を呼び込めるのかなというのは少し懐疑的なところもあります。あと、敦賀から新大阪へつながると、嶺南の小浜市で言うと、京都から19分で結ばれるというんですね。それは全然効果が違うと思うんですね。

そのあたり、今、国交省の計画では2046年ですか、それでは少し遅過ぎるだろうと思う。今、関西のほうにインバウンドが集中していますので、ぜひそういうものを福井県に取り込んでいく施策が必要だと思います。

あと、国の地方創生の支援メニューがいっぱいあったんですが、これはどこまで周知されているのかなというところが、例えば移住した場合の300万円の支援など若い人だと全然知らないんじゃないかなと思うんですけどもね。

あと、関係人口という面も、交通費を支給するということが分かっていたらもっと広がるんじゃないかなと思うのでその辺の周知をもっと。東京の若い人たちにもっとアピールしていただきたいと思います。

【司会】

ありがとうございました。

周知が非常に大事だというようなことで、内閣府のほうでも御意見を受けとめていただいたと思います。

【メンバー】

私も今の計画の中で一番インパクトがあるのは新幹線だと思っています。新幹線により、首都圏とつながり、交流人口も増える。やはり交流人口の増加は非常に効果があると実感しております。

先ほどの説明の中で、コンパクト・プラス・ネットワークというお話がありました。今、道州制という言葉自体が既に死語になっているのかもしれないですが、高齢化が進む中、あるいは財政の効率性、環境問題やSDGsという話も全てトータルで考えると、地方の都市圏全体を良くするという考え方よりも、コンパクト化して活力ある都市を集中的につくっていくことが根本的に必要だと感じています。

【司会】

ありがとうございました。

特に富山で取組が進んでいるコンパクトシティについて、今の問題意識は非常に貴重な御意見だなと拝聴いたしました。

【メンバー】

富山県の東証一部上場企業は現在19社。これは人口当たりで比較しますと、東京、大阪に次いで第3位。それから、富山ライトレールと市内電車がつながるというところで、地方創生ということで言いますと、進んだ県ではありますが、それでも現実には人口減少に歯止めがかからない。この地方創生という言葉がここ何年かの間に一般の方に定着したのは、地方に住む者としてはありがたいんですけども、ここまでやってこられて、成果が出

たものと出ないものがある。恐らく出ないものというのは、何かもっと抜本的に考え方を
変えて、別の施策を打ち出さないといけないんじゃないかと思います。

例えば私が知っている範囲で言いますと、地方創生の一つ、東京一極集中への対策で効
果が出ていますのは、東京のマンモス私立大学の定員を厳しくしているわけですね。定員
に対する倍率が1.1以上を超えると補助金をカットするというようなことで、これは直接
のステークホルダーである受験生から見ますと大問題ですから、今実際に進学の形が随分
変わってきています。

また、例えば中心商店街がなぜ活性化しないかという、スクラップ・アンド・ビルド
が進まないからで、固定資産税がある意味安過ぎるわけですね。私は税制というのは非常
に大事だと思うんですけども、ステークホルダーが多いのでいろいろ反対もあるでしょ
うけど、税制の小手先じゃない、ふるさと納税とかそういうことじゃない抜本的な地方の
将来を見据えた上での税制のあり方、東京に集まるお金を再配分する手法も含めて考えて
いく必要があるのかなというふうに感じています。

以上です。

【司会】

ありがとうございます。

なかなか言いにくいところを非常に率直に御意見を出していただいたと思います。

【メンバー】

本県も他県同様に、来年度からスタートする第2期総合計画をつくる作業を本格的に始
めているところでございます。

そのような中で、この前の御発言にもありましたけれども、地方創生という観点では、
本県としてはさまざまな取組を始めていたところではございます。

そんな中で最も大きな効果があったというのは、まさに北陸新幹線の金沢開業。そうい
う意味では、非常に条件的にはある意味では恵まれた部分があったこの5年間であったわ
けでございますけれども、やはり結果としては、社会増減の面では東京一極集中が本県に
おいても拡大をしたというような結果になっているのが現状でございます。

お話を伺っていて御質問をさせていただければと思ったのは、13ページに東京圏への一
極集中というのを時系列でまとめていただいたグラフがございました。これを非常に興味

深く拝見をしていたわけですが、これを見ていると、1976年前後、あるいは1994年前後、2011年、こういったところが谷になっていて、東京一極集中がぐっと抑えられた。あるいは1994年に至ってはマイナスだったというような状況がございます。どういう背景あるいは政策などがあつたのかというところが、もし分かれば教えていただきたいなということ。

もう一つは、近年の東京一極集中は女性が男性を上回っているということ。これはどういうふうにとらえたら良いのかなというところと、あるいはそれに対するこれまでとは異なる政策のアプローチというのがあり得るのか、そのあたりは内閣府さんとしてはどのようなお考えなのかというところを、もし教えていただければと思います。

【森山次長】

13ページのところですけれども、よく言われていますのは、景気が良い時に都市部のほうに人が集まる。景気が影響している。1962年は、高度成長期に向けてどんどん東京に人が来る。景気が悪くなってくると地方に戻るからということになっています。だから、リーマンショックのような景気後退を1つの契機に東京への人口流入が下がっていますが、その後、我々の政策もあり、日本経済が緩やかな回復を遂げる中で、東京一極集中が進んでいるというようなところがあつて、なかなか難しい。これは世界中を見ても同様ですね。アメリカにしてもどこにしても、経済が発展していくとどうしても都市化が進む。

ただ、ロンドン、パリも一極集中が進んでいますが、その進み方の度合が東京はずば抜けて大きいんですね。国土交通省国土政策局「国土のグランドデザイン2050」（平成26年7月4日）の関連資料によると、例えば海外主要都市で最も首都圏集中が進むパリでも、その割合は2割を下回り、その比率が安定している一方、東京は3割で、しかもその比率が上昇し続けている。過度の集中じゃないかという問題意識、災害への対応という問題意識を持っています。

それから東京一極集中において、最近では女性の東京流入が多いという点です。これはいろいろな仮説があります。地方では女性が暮らしにくいのではないかという意見や、あるいは教育も含めた広い意味での子育てにおいて、子どもに高いレベルの教育を受けさせたいといった場合には、東京に行きたがるのかです。いろいろな意見はありますが、実はしっかり分析できていない部分がございます。

【メンバー】

子育てを一旦そこですると女性は戻らないというお話がありましたけども、そこで関係ができてしまうので、地方へ戻りにくいということかなと思います。女性が地方で暮らしにくいというのは、自分に合った仕事がないのかもしれないなと思います。

【メンバー】

6年前に創業応援カルテットという、創業を支援しようというスキームを、七尾市、七尾商工会議所、それから日本政策金融公庫とのと共栄信用金庫の4団体でやらせていただいた。まだまだ途上でありまして十分じゃないんですが、現在のところ、創業は84件、そのうちIターン、Uターンが18%ぐらいあります。

そのうちのお一人が首都圏で料理人をやっていて、Iターンされた人ですが七尾市でイタリアンの店をやっています。

私は最初、4団体でやるというその仕組みについては、これで良いのかなという感じと、人口の減少とか地方の抱えている問題がたくさんある中で、創業しようという人がどれだけいるか非常に不安だったわけです。

今振り返ってみますと、意外と創業希望者がいらっしゃるなという感じがしております。恐らく今期中には、91件ぐらいの創業ができるだろうという状況です。

6年間で84件創業した人がいるんですが、家庭の事情等で廃業する方が若干(5件)いらっしゃいます。Iターン、Uターンの皆さん方は、北陸の、あるいは石川、能登の食材というのものにもものすごく魅力を感じているということと、地方創生というものについてマスコミの皆さん方の取り上げ方が非常に大きかったなと感じています。

さっきお話の中にもありました、いろいろな制度の周知とか、そういうものについてはもっと積極的にやるということと、もう一つはマスコミの皆さん方の協力を得て、もっと発信していかなきゃいけない。そんな感じがいたします。

北陸3県押しなべていろいろな資源がたくさんあると思いますので、この辺ももっと首都圏に向けて発信していくことが必要だなと。

【メンバー】

私は一中小企業として、地方でやっていますが、人手不足に加え、働き方改革で、今のところ1,000以上の中小企業は決して楽な状態ではないところが多いんですね。その中で

富山県は本当に今、元気印で頑張っていますから、明るい話題で持ち切りですが、女性の管理職が少な過ぎる。どうしてこんなに女性の管理職がないのかなと思った時に、地方というより北陸の風土、富山の風土。女性で管理職や社長というのはサービス業が大半ですよね。製造業でみると女性管理職が余りに少ない。私の業界では女性の社長が77社あるんですね。それで、女性会というのを8年ぐらい前につくりまして、私が初代会長ということで5年間やらせていただいたんで、富山の女性が首都圏に行きたがる理由というのはよく分かっているつもりです。

富山県も新幹線のおかげでよく女性も来られます。移住もかなり増えたと聞いております。それは介護の関係ですとか、そういうので移住なさる方とかはいらっしゃいます。そういう企業の女性の管理職というのは、前から見るとかなり増えてきたかなと。これから高齢社会ですし、そういう福祉の関係で、今以上に女性が活躍する場所が増えるということで、望みはあるというかね。

私自身を言えば、私も東京好き人間でしたし、この年になってやっと富山はほっとする良いところだなとやっと分かるようになったんですね。やはり自由に羽ばたきたい女性は、富山にずっといるかという絶対いないと思う。

富山は先ほどおっしゃったように上場企業もかなりありますし、あと薬都とやまとか、全ての意味で、スポーツにかけても今はすごい元気印なので、みんなで一緒に北陸というものを全国に向けて発信する一番良いチャンスだなというふうには捉えております。

【メンバー】

若いうちに東京など都会に行ってみたいと考えるのは、性別に関係なく当然のことだと思うので、なかなかそれに歯止めをかけるのは難しいと思います。

そういう意味では、故郷を離れて都会の大学などに進学した後、就職先を決める際どこで生活するかというようなことを考えた場合に、地方で働きたいという動機づけになるような政策を打ち出すことが大切だと感じています。そうなのですが、資料の13ページにあった東京一極集中のグラフを見ても分かるように、政策によって地方に帰ることを誘導するのはなかなか難しいということはこれまでの実績でもはっきりしています。

ただ、30代とか40代の人が今、地方や自分の故郷に結構戻りつつあります。そういう人たちがどうして地方に向かっているのか、そういう傾向が少しずつ出てきたのはなぜなのかということについて、その人たちに聞いてみるのも一手だと思います。そうした調査の

中から、こういう政策があればもっと良かったとか、こういう後押しがあれば助かったとか、そういうことを聞いてみてはどうでしょうか。それが、新たな政策につながることもあると思います。単に東京一極集中の是正に取り組むと訴えても、成果は上がらないでしょう。

北陸新幹線については、東京と結ばれたことで北陸に大きな効果があったのがはっきりしています。それだったら、財政的な問題などさまざまな課題はありますが、知恵を凝らしてなるべく早く大阪までつなぐことが大変重要だと思います。

【司会】

どうもありがとうございました。

まさにそういう実際のUターン、Iターンで来られた方に、ぜひ綿密な取材をしていたら、より声がよく通っていくのではないかなと感じました。

【メンバー】

私も実は東京に20年近く住んでいたんですけど、東京自体は中央で議論されているように、人口が増えたら何か大変だというよりも、やはり世界的に東京の魅力が落ちるということは、日本の魅力自体が落ちることなので、東京は東京で現時点でも、例えば渋谷でも池袋でも再開発をやっていますから、どんどんやらしてもらえば良いわけで、今回の第2弾は、地方は地方で、地方の独自性、自分たちで考えられるところは考えて、そこを国がちゃんとサポートしますよという色合いが強く出ていると思うんですね。

そういう意味では、ぜひともお願いしたいのは、私もこちらで市町村レベルでの準備の会議に出ていますと、独自性、例えばリカレント教育とか、同じようなSociety 5.0とかデジタルトランスフォーメーションの話をして、まだまだ浸透度合というのがいま一つだと思うので、地方は地方で頑張る、東京は東京で魅力を出していく、この両サイドの意見をぜひとも中央でもお願いしたいなと、こんなふうに思っております。

【メンバー】

東京ではレベルの高い大学があるということですけど、石川県も学都と言われるくらいに大学が多い県でございますので、やはり北陸3県におきましては人が集まるということではないかなと。そういう面で、大学の、例えば学院大学でしたらスポーツにだんだん

強いということが浮かび上がっておりますけれども、そういったことを始めて話題になる。

もう一つ、人口の減少につきまして最近私がよく思うのは、結婚式にしてもお葬式にしても内輪でやることが多くなりまして、人と交わるチャンスがだんだん少なくなってきた。これは何とかならんかなと最近よく思います。

あとは、49ページの小松市さんの例ですけれども、主観的幸福感を追求した質の高い地域づくり。全般に使われていると思うんですけど、特に外国人住民・来訪者の安心・便利へ、AIを活用した行政サービス、そういったAIに注視した電子回覧板的なものを全国に広めるべきだと私は思っております。

【メンバー】

地方創生ということで、地方の大学、特に総合大学なり国立大学の役割というのは大きいのではないかというふうに思います。関係人口の創出とか拡大というお話がありましたけれど、今はもうそれぞれで技術や知識や情報を持っている時代じゃなくて、ネットワークをつなげるというか、人も含めて循環するというか還流する、連携するというのがとても必要なんじゃないかと思うんです。

国立大学、地方の大学としては、できればそういうもののハブになっていって、日本の他の地域や大学ともつながっていますので、若者もいますし、最近外国人も大変増えてきていまして、外国ともつながっていて、いろいろな企業やそれから地元の人なんかも連携するところの新たな関係を生み出す側にもなり得るなというふうに思っています。

どういう人材を構築していくかという点では、女性が地方で力を発揮できるような力をつけていけるようなことというのが必要なんじゃないかなとも思います。

地方創生、人材育成について、大学の役割として、何かそういう機会をいただけるようなことがあればぜひお願いしたいなと思います。

【メンバー】

当団体では2035年頃を目指して、北陸3県の1人当たりのGRP（域内総生産）についての目標、ビジョンを掲げました。

今、域内総生産の全国平均が約400万円です。現状、東京は700万円を超えています。2035年頃向けて、北陸はその700万円を目指そうということです。

海外に目を転じますと、北欧の3カ国に加えてデンマークは、人口が大体500万人程度の

国ですが、大体700万円を稼いでいるんですね。残り15年ほどしかないんですけど、まず豊かになりましょうという目標を掲げることを決定いたしました。

この2035年頃という時期には、北陸新幹線がもう大阪までつながっていると想定しています。2030年に札幌まで新幹線がつながる頃には、同じく北陸も大阪までつないでくださいということで、ぜひお願いしたいと考えています。

もう一つ、今、国の新幹線予算って804億円しかないんですね。道路予算は1兆5,000億円あるんですね。もうこれは全然問題にならないということで、ぜひ国の新幹線予算を増やしていただきたいところです。

2030年頃に新幹線が大阪までちゃんとつながると、北陸新幹線が北回りでループを形成し、いわゆるゴールデンルート、東海道新幹線の代替にもなり、日本の真ん中にループができることとなります。どっちにも行けますよという形になった時に、その400万円を700万円にしていかなきゃいけないということです。もう一つ言いますと、今、放っておくと北陸新幹線は2046年の開業だと国はおっしゃっているんですね。それを2030年にすると16年間前倒しで4兆3,000億円、財が生まれる。税金じゃなくて財が増えるんですね。民間の金回りが良くなるということですから、つくるのに2兆1,000億円かかっても、財が4兆3,000億円生まれるなら、これで元が取れるじゃないですかということで、ぜひお願いします。

その時に向けて、高い目標を掲げて新幹線をつくっていただいても、やることをやらないといけない、北陸が頑張らないといけないんです。IT、5G、AI、いろいろ言われていますけど、ものづくりの地域なので、それを取り込まないといけない。人が足りないのは事実なので、足りないと言って、じゃ、東京並みに給料を出せるかといったら出せないのでからね。そしたらもう、いわゆる先進技術を取り入れてものづくり、ベースとなる産業を考えるしかない。付加価値をつけていくしかないということです。大学さんにAIに強い人材を北陸の企業に投入していただだけませんかといっても、すぐ東京に取られちゃうんですね。今、大学に、北陸の企業の中堅、もしくは若手の皆さんにリカレント教育をしていただだけませんかと相談しているところなんです。AI、5G、難しいんです。大事な若手の社員に少しの時間大学に行ってもらって、先生にかじりで良いから教えてくださいと。集中的に教育をやっていただく機会をどうにかつけれないものかということで今、四苦八苦しなながら、御相談している最中です。とにかくそれをやらないと北陸はしっかり稼げないと思っています。まずデジタル技術を受け入れる窓口をつくらないと企業はもっ

と発展できませんので、その窓口を担う社員を再教育していただくのをぜひ大学に担っていただきたいと考えています。

もう一つ、他の委員もおっしゃいましたが、女性は既に活躍しているんですけど、管理職比率は低いですね。これは根本的に問題があると思うんです。これを何とかしていかなくちゃいけないんですが、とにかくブランド力、北陸は女性にとって輝ける土地なんですよというところを何か発信していきたいなと思っています。

以上です。

【司会】

どうもありがとうございます。

新幹線を早く実現するためにも、地方創生の取組に力を入れて、ちゃんと北陸はやることをやっていますよと、こういうことが大事なんだというふうに痛感をいたしました。

【メンバー】

まち・ひと・しごとの部分の特に人と仕事の部分ですね。ここについては我々が拠点となって、地方銀行が一番よく地元を知っているということの裏返しだと思いますので、その期待感に十分に伝えるという意味で、ハブ機能をしっかり地銀が発揮することが、直接・間接的に地域経済の発展につながるんだろうなということを実感しました。

【メンバー】

新幹線に関しては、ほとんどの方が触れたように、北陸新幹線こそが地方創生の最大のメリットをもたらす道具だと思うんですね。だから、今後はやはり大阪延伸というものを早く決めてもらいたい。財源は建設国債でも良いんじゃないのかと思っていますけども、ぜひ敦賀の開業と同時に着工ができるようにしてほしいと思います。

その点でもう1点だけ言わせてもらいますと、この第2期の総合戦略の地方への移住・定着の促進というもののなかで、地方とのつながりの強化となっています。これは確かに非常に重要なことだなと思っています。

というのは、例えば企業で言うと、コマツが小松市に生産拠点をもち、グループ企業を持っていると。最近ですとDMM. comという会社、これは加賀市で生まれた企業ですけども、今は六本木に本社があって1,500人ぐらいの従業員がいます。このオフィスが最近、

北國新聞の会館のビルの中に入ってきてくれて、金沢に営業所をつくってくれた。ルーツである加賀市にも営業所があるんですね。そして、金沢市のもう1カ所にも営業所をつくった。これはやはりふるさととのつながりで出てきてくれた。

ほとんどの企業は、残念ながら、そういうふるさとを持たない無国籍みたいな企業ばかりなので、どんな縁でも良いから、とにかく無国籍な東京、関西の企業にふるさとをつくってほしいんです。そのマッチングというのを何かしてほしい。どんな無理な縁結びでも良いから、とにかく企業にとっての田舎というものをつくれなかなと。そこに、支社がダメなら地方型のサテライトオフィスでも良いと思う。そんなものを出してもらう。そのための税制のインセンティブみたいなものも考えてほしいし、そういうことによって、つながりというもので企業進出というものを促せるんじゃないかなというふうに思います。

実際、DMM. comの支店には、ほとんど若い20代の男女ばかりです。こうした人たちが全国から来て、東京出身の方もたくさんいます。今、金沢に根付こうとしていらっしゃるし、実際、どこでも仕事ができるんですよ。パソコン1つあれば、東京に本社があっても地方でやっていける。

それは例えば、この間、福岡市で学校を廃校にした校舎をそのまま若手の起業家に託す。オフィスとして使ってもらう。昔の教室をそのままオフィスにして、ものすごく安く貸し出している。若い人たちがいっぱいそこで仕事をしているんですね。もともとITの技術者が独立して、自分でオフィスをやっている。地方の中堅企業に引き抜かれて、そこで働いている人もいました。

そんなふうに、縁のつながりができれば、いろいろなほうに広がっていくと思うんですね。そのつながりを強化、単に言葉だけじゃなくて、マッチングシステムとかノウハウ、いろいろなやり方があると思うので、それをぜひ実現してほしいなというふうに思います。

以上です。

【司会】

どうもありがとうございました。

そろそろお時間になりますので、これで意見交換を終了させていただきたいと思います。

活発な御意見を皆様からいただきまして、どうもありがとうございました。

以上